

R5(2023)年度 第1回 須坂市地域公共交通会議 議事録

【日時】 2023年6月6日(火)午後4時00分から5時45分

【場所】 生涯学習センター 3階ホール

【議事概要】

1. 開会
2. 自己紹介
3. 役員選出について
4. 議事
 - (1)協議事項について
 - ① 令和4(2022)年度事業報告
 - ② 令和4(2022)年度事業歳入歳出決算について
 - ③ 令和5(2023)年度事業計画(案)について
 - ④ 令和5(2023)年度事業歳入歳出予算(案)について
 - ⑤ 今後の施策展開について
 - (2)報告事項
 - ① すずか市民バス・すずか乗合タクシーの利用状況について
 - ② バスICカードくるるの利用状況について
5. その他
6. 閉会

[内 容]

1 開 会

欠席者の報告。

《出席23名（代理出席2名）欠席3名》

会議は公開。議事録作成のため、会議内容を録音。

2 自己紹介

事務局より順に自己紹介

3 役員選出について

須坂市地域公共交通会議設置要綱第4条にて、会長1名および副会長1名、監事2名を委員が互選。

委員より「事務局に一任」との提案。

【事務局】

これまで会長であった須坂市シニアクラブ連合会の委員と、副会長であった区長会の委員を会長、副会長としてお願いしたい。

監事については市民または利用者代表の委員と市民環境部長にお願いしたい。

→異議なし。

会長・副会長登壇、会長よりあいさつ。

4 議 事

(1) 協議事項

① 令和4(2022)年度事業報告

② 令和4(2022)年度事業歳入歳出決算について

【事務局:①・②について一括して説明。(会議資料P3～7)】

【委員より監査報告】

◆質問なし

→協議事項①、②について承認

③令和5(2023)年度事業計画(案)について

④令和5(2023)年度事業歳入歳出予算(案)について

【事務局:③、④について一括して説明。(会議資料P8～9)】

◆質問なし

→協議事項③、④について承認

⑤今後の施策展開について

【事務局・説明(会議資料P10)】

◆質問なし

【アドバイザー】

- ・市中心部の再編案は施策の肝になってくる。買い物などの目的地は南にシフトしていて、イオンができればさらに南下する。もともとある市役所西回りは2時間に1本であるが、そのルートが再編案の本丸になる可能性もある。一方で運行距離は長くなるので、利便性という点では議論が必要。
- ・高校生という話があったが、高校生にとってイオンモールは居場所になる。現状で定期券の売り上げは好調で、このままこの層がイオンモールに行きたいと思っても定期外のため行くことができない。栃木県鹿沼市では、バス全体の運賃を上げ、大学生以下の定期券を全路線共通に変更しさらに値下げをして売った。結果、この4月だけで昨年全体の売り上げを上回った。売り方次第でこのような効果もあるため、こうした売り方や区間設定についても議論していきたい。
- ・また、毎回でなくても良いので高校生を臨時委員として招き意見を収集するのも一つ。栃木県の公共交通会議では、大学生と高校生を実際に委員として招待している。最近の高校生の過ごし方は変化しており、そういった情報を会議内で発言してもらえればわざわざアンケートをする手間も省ける。また実際に動いてくれる点でも助かる。
- ・北相之島線や明德団地線のように一日の本数が少ない路線にテクノロジーを活用することで、待ち時間の短縮につながる可能性がある。現状のライナー線は別路線と一緒に走らせることで効率化を図ってきたが、テクノロジーを活用しこの10年前に始まったライナー線の高度化、移動の改善もやっていけるのではないか。
- ・バス停環境を整備していく、市としてもチェック体制を構築していく生涯学習センターのバス停は、30分に1本ペースで頻度が高いが、停留所を見ただけではわからない。バス停環境を整えるのと同時に、こうした利便性がわかるような工夫についても検討いただければと思う。実は37万人都市の前橋工科大学前のバス停は、生涯学習センターよりも少ないので、ここの停留所は利便性が高い。
- ・高齢者向けの出前教室などコミュニケーションを交えて、利便性を伝えていくことも重要。

【事務局】

- ・リーフレットを作ったきっかけにもなっているが、「意外と使えるのに、知らない、乗らない」という部分が公共交通にはある。施策にもあるが、今後は「とにかく発信していく」周知活動に力をいれていく。
- ・補足として、施策の展開について説明したが、資料はあくまで今後5年間で実施していくものをまとめたものになる。都度会議の中で皆さんの意見を伺いながら、会議運営をしていきたい。

→協議事項⑤について承認

(2) 報告事項

①すざか市民バス・すざか乗合タクシーの利用状況について

②バスICカードくるるの利用状況について

【事務局:①・②について一括して説明。(会議資料P11～21)】

【アドバイザー】

- ・市民バスの定期券販売枚数は増えている。因果関係は確定的ではないが、GoogleMapで市民バスが検索できることがプラスに影響していると推察される。こういった情報を見て学生は経路を調べる。
- ・明徳団地線について、一時期は米子線より一回り少ない乗車数であったが、今回の数字を見ると、米子線と明徳団地線はほとんど変わらない。これは、米子線が減っているのか、明徳団地線が好調なのか、もしくはどちらも要因としてあるのかを今後把握していく必要がある。
- ・乗継割の組み合わせについても詳細に分析することで、今後の再編に役に立つと思われる。「乗合タクシーから市民バス」なのか「市民バスの路線ごとに乗り継いでいる」のか、これを調べることでヒントになる。

【委員】

- ・仙仁線と明徳団地線の通学定期利用は、高校通学なのか、中学通学なのかは把握しているか。

【事務局】

- ・昨年度のICカードの分析では、東中学校での乗降は多いと認識しているが、それが中学生の通学としての利用かは、把握していない。同じくして高校通学についてもICカードの利用データからは把握できていない。

【委員】

- ・バス会社として分かる部分については、須坂駅までバスで、駅から電車という定期券という購入が多い。山田温泉線で須坂東高校まで通学するという購入は推察できる。

【アドバイザー】

- ・市民バスについては、電鉄に乗って市外の高校に行くという利用は多いと推察される。ひとつに到着時刻の問題があり、昔は、おはようライナーという便は無く、市内の高校に通うために作った経過があった。現在の須坂駅行きは、仙仁線7時22分、おはようライナーは7時55分に到着する。この時間に多くの通学利用があると推察すると市内の通学で使っている方は少ないように思う。
- ・須坂は高校再編もされている経過があるので、これからもこの問題についてみていく必要がある。

【アドバイザー】

- ・須坂市の土地利用が大きく変わるなかで、中心部の路線再編をしていくのか。ICカードの変更を迎えるなかで、どういった運賃体系が良いのか見直すチャンス。こういったなかで、仮説、意図をもって、データ分析等をしていく必要がある。たくさんデータを集めることも重要であるが、料理と同じで「何を作りたいか」という意図がとても大事。
- ・協議会だけの場では、なかなか言いたいことも忘れてしまうと思うので、適宜、事務局にご意見を寄せていただければと思う。

5 その他

◆全体を通しての意見

【委員】

長電バスで受託している須坂屋代線について、元旦の運休を計画している。平日の利用は300名程度、休日は100名、年末年始は2ケタまで落ち込む。今年の元旦については27名の実績。乗っていない訳ではないが、元旦は世間的にも閉店する商業施設が多いため、バスも移動需要に合わせて運休としていきたい。千曲市と長野市にも同じ内容でお伝えしており、このような予定でいることをご承知おきいただきたい。

6 閉会